

市 政

二本松市議会・市政会会報

第25号

2023年5月

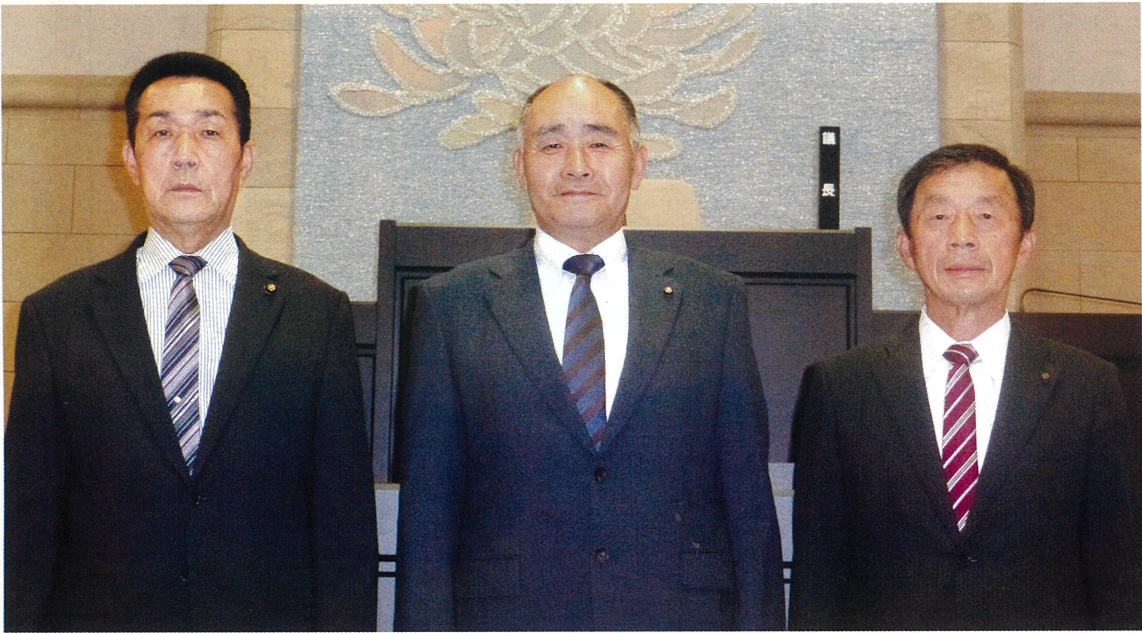
発行者

市 政 会

〒964-8601 二本松市金色403-1

「この会報の作成費には政務活動費が充てられています。」

令和五年三月定例会は、去る二月二十八日に招集され二日間
の会期を経て、三月二〇日に閉会しました。
今定例会は、令和五年度予算を、予算審査特別委員会を設置
して、全体で総括審査を行ない、また、三つの分科会を設置し、
各常任委員会の所管事項を分担し詳細審査を行ないました。



副会長

安齋政保

議会副議長
産業建設常任委員
Tel 五二一七〇四
(FAX 兼)



会長

熊田義春

文教福祉常任委員
Tel 二二一〇五一
(FAX 兼)



幹事長

小野利美

議会運営委員長
総務市民常任委員
安達地方広域行政組合
議会議員
Tel 二二一七〇二
FAX 二二一三三三



十二月定例会一般質問

特別支援学級の現状について

問、各小・中学校におけるクラス数と人数は。
答、知的障がい学級が一六校中一三校に一四学級、情緒障がい学級が八校に八学級設置され合計八九名の児童が在籍。又、中学校では、知的障がい学級が七校中六校に八学級、情緒障がい学級が四校に四学級設置され合計四八名の生徒が在籍。さらに、通級指導教室には、南小に二四名、岳下小に一六名、油井小に一〇名の児童が通学している。

問、教員、介助員の研修の確保と充実。
答、指導スキルを高めるため、就学指導研修会、特別支援教育研修、介助員研修会等の研修を積極的に行っている。

保育の安全と総点検について

問、各幼稚園、保育所の安全対策を進めるマニュアルはあるのか。
答、二本松市特定教育、保育施設及び特定地域型保育事業の基準に関する条例により、運営規程を定め、さらには国からのガイドライン等を参考に、各保育施設において作成している。

問、保育中の事故把握の範囲は。
答、死亡事故及び意識不明の事故を含む治療に要する期間が三〇日以上を負傷や疾病を伴う重篤な事故が報告の対象となる。

公共施設全般の安全点検について

問、安全点検の実施は。
答、各施設管理者の日常的業務として、随時点検を行っている。

問、今年度大きな事故はなかったのか。
答、現在のところ、今年度において特に大きな事故は発生していない。

人口減少対策事業

問、人口流出に歯止めをかけるための施策について市長の考えは。
答、本市に、今現在、住んでいる全ての方々に「二本松に住んでよかった。二本松に住み続けたい。」と思っていただけよう、地元雇用環境の整備や新規就農者の支援、住宅環境の整備、子育て支援・福祉の充実、教育環境の整備など、各種施策・事業を着実に推進し、人口流出対策・人口減少対策に積極的に取り組んでいく。

問、道路の舗装補修整備の計画は。
答、平石高田一丁目地内及び安達ヶ原三丁目地内の一部区間において、今後の修繕計画の中で部分的な補修を実施していく。

市道平石高田・安達ヶ原線の道路整備

問、歩道設置整備の考えは。
答、二本松第二中学校、石井小学校及び大平小学校の通学路であり、また国道4号渋滞時の迂回路としての利用者が多く、交通量が増大している状況から、今後の歩道整備計画の中で、検討していく。

定住促進住宅あだち団地

問、階ごとの家賃の見直しの考えは。
答、ある程度の所得を有する、中堅所得者層も入居できる定住促進住宅の性質上、公平性を確保する観点から現行一律の家賃設定が適切であると思われるがこの建物には、エレベーターを有していない等の特殊な条件があり、上層階の入居者の家賃設定を安くする等、今後の研究課題とする。

入居率を増やすための施策は。

問、入居率を増やすための施策は。
答、住宅、室内の写真を市ウェブサイトに掲載するなどして優良な立地条件や間取りの広さをアピールしている。今後も引き続き市窓口やウェブサイトで積極的に周知し、定住促進を図っていく。また、階ごとの家賃見直しも入居率アップの方策と考え、今後研究する。

三月定例会、市政会代表質問

本市の財政について

問、過去三カ年の地方交付税の交付額は。
答、令和二年度は、九三億五、二三三万七千円、令和三年度は、九五億六、七一〇万八千円、令和四年度は、七九億六、二八九万四千円である。

過去三カ年の市税収入額は。

問、過去三カ年の市税収入額は。
答、令和二年度、六一億六、三三八万六千円、令和三年度六三億四、五〇八万六千円、令和四年度は現時点で、六六億九、九七三万三千円を見込んでいます。

財政調整基金の過去三カ年における年度末の残高と将来の見通しは。

問、財政調整基金の過去三カ年における年度末の残高と将来の見通しは。
答、令和二年度末は、二三億六、三六九万九千円、令和三年度末は三二億一、三八〇万三千円、令和四年度末は、今定例会に財政調整基金繰入金を減額する補正予算を提案しているため、三三億六、三八〇万三千円である。

問、過去三カ年の一般会計における補正予算額の合計額は。
答、令和二年度、一二億一、七七二万四千円、令和三年度、五一億六、七四一萬九千円、令和四年度、四三億九、八三二萬二千円である。

市長の市政取り組みについて

問、長期総合計画内容を含めた事業見直しは。
答、毎年度当初予算案に基づき、四つの基本目標ごとに取組まうことを行い、事業実施の裏付けとなる財政計画と合わせ、三カ年間の実施計画を策定し毎年度ローリング方式により見直しを行っている。

市政会活動報告

市政会では、去る二月五日（日）に市内二ヶ所で運営されている「こども食堂」について、「二本松こども食堂ハラクッチー」様と「二本松市まゆみこども食堂」様を視察させて頂きました。それらの活動内容、取り組みの説明を受け施設内を見学させていただきました。

以下にその概要を報告させていただきます。

■二本松市まゆみこども食堂 「地域子育て支援センターDen」 学校法人まゆみ学園

こども食堂は平成二十八年九月から運営を開始し、その理由について、お聞きしたところ、家庭の状況を見ても、共働きの世帯が増え、夕方お迎えに来てから、コンビニによって、車の中でおにぎりを食べていたり、家事と子育ての両立の大変さ、食の簡素化、食事を通しての団

活動しているとのことでした。NPO法人全国こども食堂支援センター、「むすびえ」によると、この六年間で全国のこども食堂の数は二十三倍になり七千箇所にのぼっており、目的もおなかをすかせたこどもへの食事提供から、孤食の解消、豊かな食材による食育、地域の交流



都会では、貧困対策としての、こども食堂がクローズアップされる中、まゆみこども食堂は、子育て世代の親子に、食を通して子どもと向き合う時間を作る、孤食の子どもや地域の方が気軽に利用することで、地域の皆さんの居場所作りも含め

■二本松こども食堂 「ハラクッチー」 NPO法人あだだ青い空



「NPO法人あだだ青い空」では、二本松市福祉センターを会場にして、月2回こども食堂を実施しているそうです。今回の視察では以下の8項目について質問させていただきました。

今後の運営についてお聞きしたところ新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたら以前のように、夕食も会食形式のこども食堂に戻し活動を続けていきたいとのことでした。

市政会が考え、心配していた、子どもの貧困対策としての「こども食堂」ではなく、親子が向き合う時間を作ることでの子育て支援など、すばらしい活動であり心より感謝をしています。また、多くのこども達、保護者に参加してもらえ、ように私達市政会も勉強して行くべき、との思いを強く感じました。



これらの質問に対し、「NPO法人あだだ青い空」の方々からは以下の内容でご回答いただきました。

- 1 こども食堂を始めようと思ったきっかけと、始めるにあたって苦労したことは。
- 2 こども、保護者、地域の方々への周知方法は。
- 3 どのような方々が支援、協賛されているのか。（支援、協賛をいただいているのか）
- 4 参加している、小学生、中学生の人数等は。
- 5 参加されている、こども達等からの感想等は。
- 6 保護者、地域の方々からの感想等は。
- 7 予算や食材面での問題点は。
- 8 市への要望等は。

- 1 6年前昼食も食べないこども達が居るのでやってみないかと話があった。月に2回の開催で、活動資金・食材調達・参加者やボランティア確保などで苦心した。
- 2 市役所や住民センター等へチラシ配布、小中学生へのチラシ配布や新聞折り込みを実施している。
- 3 市役所や社会福祉協議会、二本松ライオンズクラブ、東和ライオンズクラブ、ふくしまこども食堂ネットワークなど。
- 4 参加者は、小学生未満のべ14名、小学生のべ12名、中学生のべ4名、大人のべ20名。
- 5 調理するのが楽しい、みんなで遊ぶのが楽しい。
- 6 子どもの好き嫌いがなくなった、家で手伝いをするようになった、友達がふえた、子ども達と一緒に活動できて、元気をもらった。
- 7 安定的な財源はなく、毎年不安定な各種助成金に頼っている。
- 8 こども食堂への財政支援やこども食堂を増やすための協力をお願いしたい。（市内にこども食堂は2カ所しかない）

子どもの参加については、親の理解がないと難しいとの事でした。本市においても、もっと財政支援すべきで、また会場の使用料は、一般の半額との事でしたが、この様な団体には、全額無料にすべきと感じました。

